

NACOME

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
令和3年度 臨時総会、及び後期研究会

令和4年1月9日(日) 13:00~16:10

大阪キリスト教短期大学講堂

主催 全国大学音楽教育学会 関西地区学会

プログラム

I. 学会諸連絡 (13:00~13:15)

1. 全国大学音楽教育学会 第36回全国大会《オンライン開催》終了の件
2. その他

II. 臨時総会 (13:15~13:30)

1. 全国大学音楽教育学会 第36回全国大会《オンライン開催》会計報告の件

* * * * *

III. 研究演奏発表 (13:30~14:20)

1. ピアノ独奏 田中 慈子 (京都光華女子大学)
モーツァルト作曲:《ロンド ニ長調 K.485》
2. ピアノ独奏 小谷 朋子 (常磐会短期大学)
ショパン作曲:《ワルツ 第5番》
3. ピアノ独奏 中世古 やよい (武庫川女子大学)
リスト作曲:《詩的で宗教的な調べ》より 第3曲《孤独の中の神の祝福》後半
4. ピアノ独奏 井本 英子 (神戸教育短期大学)
文部省唱歌/井本 英子 編曲:《ゆき》
5. 作品発表 金井 秋彦 (大阪信愛学院短期大学)
独 唱 篠原 美幸 (大阪教育大学)
ピアノ 金井 秋彦 (大阪信愛学院短期大学)
詩 柿本 香苗/曲 金井 秋彦:《文字がことばに》
詩 柿本 香苗/曲 金井 秋彦:《たったひとつの》
6. ピアノ連弾 山田 真由美 (大阪芸術大学)、石原 享子 (池坊短期大学)
モーツァルト作曲:《交響曲第40番 ト短調 K.550》より 《第1楽章》
7. ピアノ連弾 川畑 尚子 (大阪キリスト教短期大学)、山内 信子 (聖和短期大学)
ローゼンブラット作曲:《二つのロシアの主題によるコンチェルティーノ》

休 憩

IV. 講演 (14:30~16:00)

講師：寺尾 正 氏 (大阪教育大学名誉教授)

演題：ポリフォニーで鍛える合唱指導

【前半】参加型のレクチャー

【後半】アンサンブル・ダッフォディルの演奏

1. Sumer is icumen in (13世紀イギリス 作者不詳)
2. Non più guerra (C.Monteverdi)
3. Io mi son jovinetta (C.Monteverdi)
4. Jesus bleibet meine Freude (J.S.Bach)
5. Bob Chilcott 編曲《日本の歌による5つの混声用合唱曲》
 - ①砂山
 - ②村祭
 - ③おぼろ月夜
 - ④故郷
 - ⑤紅葉
6. Requiem (Bob Chilcott) より
 - ①Introit and Kyrie
 - ②Pie Jesu
 - ③Sanctus
 - ④Lux aeterna

【寺尾 正 先生：プロフィール】

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科独唱専攻修士課程修了
大阪教育大学名誉教授、アンサンブル・ダッフォディル指揮者、日本フーゴー・ヴォルフ協会同人、
日本シューベルト協会、全国大学音楽教育学会（関西地区学会）、日本音楽教育学会会員

モデル演奏：アンサンブル・ダッフォディル

大阪教育大学の学生8名により、1996年に結成。メンバーは学生から院生、卒業生に渡り、アンサンブル活動だけでなくソリストとして広く活躍する者もいる。現在は寺尾正の指導のもとに活動。2008年より、女声での活動に加え、混声での活動も行なっている。これまでに、16回のリサイタルのほか、リーガロイヤルホテル（大阪）ザ・クリスタルチャペルでのクリスマスコンサート、弥生文化博物館や京都文化博物館でのレクチャーコンサート等に出演。2006年には沖縄県での公共ホール活性化アウトリーチ事業にも参加。その他、施設や小学校等でのボランティア活動も行なっている。また、戦前関西で活躍したヨーゼフ・ラスカの作品の再演など、研究活動にも寄与している。

研究演奏発表要旨

1. ピアノ独奏 モーツァルト作曲：《ロンド ニ長調 K.485》

田中 慈子 (京都光華女子大学)

今回演奏するロンドニ長調 K.485 は、ソナチネ・アルバム 1 巻に掲載されていることもあり、一般的に、ソナチネと共に「子どもが勉強する曲」として知られているのではないだろうか。筆者もその一人であるが、子どもの頃に演奏したことはなかった。ところが、ロンドを学ぶ学生を指導する機会があり、これぞモーツァルトとを感じる奇想天外な転調のオンパレードに度肝を抜かれ、今回演奏することにした。

この曲は、代表作であるオペラ「フィガロの結婚」K.492 を発表する数か月前の、1786 年 1 月にウィーンで作曲された。タイトルはロンドであるが、楽曲構成はロンド形式ではなく、一つの主題が転調を繰り返すソナタ形式で書かれている。主題が転調する様子を冒頭から追っていくと、ニ長調、ロ短調、イ長調、ト長調、二短調、ヘ長調、変ロ長調と、実に 7 種類の調で主題が登場する。にもかかわらず、この転調が実にさりとなされているところが、この曲の最大の魅力といえよう。

2. ピアノ独奏 ショパン作曲：《ワルツ 第5番》

小谷 朋子 (常磐会短期大学)

2021 年 10 月に開催された第 18 回ショパン国際ピアノコンクールでは、日本人として 2 位に反田恭平氏、4 位に小林愛美氏が入賞する快挙が達成された。このコンクールの出場者による多くのショパンのピアノ作品と巧みな演奏技術は、世界中の耳目を集める。一方、出場者の演奏のみならず楽譜に記されている内容を把握するうえで、ポーランドの歴史的側面や社会的状況、民族性などもさらに深く理解する必要があるのではないか。

ショパンは、1830 年 12 月 22 日付の家族への手紙のなかで、ウィーンの聴衆がヨーゼフ・ランナーやシュトラウス 2 世のワルツの演奏に大喜びする様子を記し、聴衆の趣味の墮落への失望を示している。ランナーなどのワルツがダンスのための娯楽性を追求しているのに対し、ショパンのワルツはむしろランナーなどのワルツに対峙したレジスタンスや怒りとして、芸術性やアイデンティティの表現を目指すものである。中でも、作品 42 はポリメトリックやオベレックによる民俗的躍動感を基盤とした独自の作曲技法による即興的ワルツなのである。

3. ピアノ独奏 リスト作曲：《詩的で宗教的な調べ》より 第3曲〈孤独な中の神の祝福〉

中世古 やよい（武庫川女子大学）

リストのピアノ曲は一般的に華やかで超絶技巧を駆使するものが多いが、「詩的で宗教的な調べ」は人間の内面を深く見つめ、宗教への畏敬の念を描いた10曲の作品から成り立つ。これらの作品は1830年に出版されたフランスの詩人ラマルティーヌの同名の詩集に当時20歳前後のリストが深く感銘を受け、1845年から1852年にかけてワイマールで作曲され、1853年カロリーヌ・ヴィットゲンシュタイン侯爵夫人に献呈されている。当時リストは彼女との結婚を希望しており、ローマ教皇の許可を求めたが結局受け入れてもらえず、後にカロリーヌは尼僧に、リストは聖職者となる。自らの運命をこの曲に重ね合わせるように、静けさの中に強い思いと祈りが溢れている。そのような背景に思いを馳せながら、詩の内容をいかに表現できるかが課題である。

4. ピアノ独奏 文部省唱歌／井本 英子 編曲：《ゆき》

井本 英子（神戸教育短期大学）

文部省唱歌「雪」は、1911年の『尋常小学唱歌』第二学年用に掲載された曲である。歌い継がれているこの曲を題材にして、ピアノ演奏で『雪』の様々な情景を豊かに思い描くことができるように構成して編曲した作品である。

こどもたちと「雪」について話をしていると、「甘い味の雪」「黄色の雪」「ピンクの雪」「雪だるまの雪」「怪獣の雪」「三角の雪」など、色や形状など多彩にファンタジックな情景が広がっていった。そこで、こどもたちの発想をもとに広がった「雪」の世界を作品にした。素朴な味わいのテーマ「雪」から始まり、「虹色の雪」「甘い雪」「尖った雪」「南の国の陽気な雪」「冬の海辺の荒波に降り続ける冷たく淋しい雪」というイメージで展開する。「アナと雪の女王」挿入歌の「雪だるまつくろう」（作曲：Kristen Anderson-Lopez、Robert Lopez）と「雪」の2曲を同時に奏でて融合させた曲が終曲である。

研究演奏発表要旨

5. 作品発表 詩 柿本 香苗／曲 金井 秋彦：《文字がことばに》
詩 柿本 香苗／曲 金井 秋彦：《たったひとつの》

作曲・ピアノ 金井 秋彦（大阪信愛学院短期大学）
独 唱 篠原 美幸（大阪教育大学）

私は、言葉と音楽の融合作品である「歌曲」の分野にとっても魅力を感じ、創作活動の柱の一つにしている。近年、教育現場においても言葉が重視され、小学校音楽科の「鑑賞」においては、鑑賞をより深めるための手段として「感じ取ったことを言葉で表す」ことが求められている。

今回発表する 2 曲は共に詩人 柿本香苗氏の詩をテキストにした作品である。柿本氏の詩には魅力的な作品が多く、作曲する者の心を捉える詩が数多くある。

《文字がことばに》は詩自体に躍動感があり、詩の持つ推進力やエネルギーに導かれて作曲を進めることができた作品である。《たったひとつの》は、詩から溢れる柿本氏の視点の優しさを表現するためにも、奇をてらうことなくごく自然な音楽で表現することを心掛けて作曲した。後奏最後には両手オクターブによる G 音を 3 度奏で、煌々と照る月の優しくも凜とした様子を描写しながら静かに曲を閉じている。

本日の作品発表にあたって共演を快諾して下さった篠原美幸先生に心より感謝の意を表したい。

6. ピアノ連弾 モーツァルト作曲：《交響曲第 40 番 ト短調 K.550》より 〈第 1 楽章〉

プリモ：山田 真由美（大阪芸術大学）
セコンド：石原 享子（池坊短期大学）

モーツァルトの交響曲の中で短調の曲はたった 2 曲しかなく、その一つがこの 40 番である。モーツァルトが多く大切な人を亡くし、社会情勢も不安定な時期に書かれた。

冒頭のバイオリンの旋律は「ため息」と呼ぶ人もいるが、一度聴いたら忘れられない印象的なものである。移ろいでいるような転調の仕方は不安な心を表しているようにも聴こえるが、その先は希望へと導かれている。

本来はオーケストラのために作曲された曲だが、今回は「ピアノ」という違う楽器での表現を試みた。音楽から何かを感じ取る力や、それを人生の中で活かせる感性は幼少の頃から育んでいきたいものである。音楽の持つ素晴らしさを子どもたちにも伝えていけるよう、今後も研究を続けていきたい。

7. ピアノ連弾 ローゼンブラット作曲：《二つのロシアの主題によるコンチェルティーノ》

プリモ：川畑 尚子（大阪キリスト教短期大学）
セコンド：山内 信子（聖和短期大学）

ローゼンブラットは1956年7月31日モスクワ生まれのユダヤ系ロシア人で、エンターテインメント性の高い作品を生み出すことで注目されている。ジャズ、ロック、ラテン、ロシア民謡、クラシックなど、多くのジャンルの音楽語法を取り入れた曲想は大変ユニークなものだが、ウィットにとんでいて親しみやすいのが特徴である。今回演奏する『二つのロシアの主題によるコンツェルティーノ』もジャズの要素を多分に含む曲で、有名なロシア民謡の「カリンカ」と「モスクワ郊外の夕べ」を組み合わせたヴィルトゥオーゾ作品である。

この作品は「ピアノ連弾」「ピアノと弦楽器」「ピアノとオーケストラ」の3つのスタイルで存在する。連弾編は、1999年～2000年にかけて日本で開催されたピアノデュオ作品による第5回作曲コンクール（国際ピアノデュオ協会主催）において、ローゼンブラットが特別賞・毎日新聞社賞を受賞したときの作品である。

* * * * *

●お知らせ

- ・全国大学音楽教育学会 関西地区学会誌 第2号 vol.2 2021 について：
残部が若干数ございます。実費（¥600）にて販売いたします。
- ・関西地区学会ウェブサイト <https://nacome-kansai.jimdo.com>
- ・全国大学音楽教育学会ウェブサイト <http://www.nacome.com>

NACOME

全国大学音楽教育学会
関西地区学会

National Association of College Music Education